

# 学級活動学習指導案（3年3組）

- 1 題材名 他者の心情を基準によりよい人間関係について考えよう  
～法律上のいじめの定義、トラブル事例をもとに～

## 2 題材設定の理由

### (1) 題材観

本題材は、身近で起きそうなトラブルの事例をもとに、「いじめ」とは何かを法律の定義から考えることを通して、友達とのよりよい関わり方について考えることで、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとする態度を養うことをねらいとするものである。

学校生活や社会生活において、よりよい人間関係を形成していくためには、他者への思いやりを深め、相手に配慮した言葉遣いや接し方を意識することが大切である。しかし、日常生活の中で自分の言いたいことや、言わなければならないことを他者にきちんと伝えることの難しさは、子供だけでなく大人でも多くの人を経験している。「親しいあまり注意すべきことを言えない」「人間関係が崩れるのが嫌で頼まれたことを断れない」などの理由から、我慢してその場をやり過ごすことも考えられる。そのため、我慢していることを他に告げ口したり、悩みから心身を害したりするケースも起こる。中学生では、それがいじめや暴力行為、不登校などの要因になっているとも言われている。

国立教育政策研究所の「いじめ追跡調査」で、9割以上の児童生徒がいじめの被害経験と加害経験を有していることが報告されている。本校で定期的に行っている「生活振り返りアンケート」でも、学級や部活動において友達から心身の苦痛を受けたと答えた生徒が数名報告されている。本学級においても前述の実態が見られ、「いじめ」の防止等の対策は課題である。また、「いじめ防止等のための基本的な方針」には、いじめの未然防止のための教育活動として、学級活動の重要性が示されている。

そこで、本題材は、友達とのよりよい関わり方について、「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義の視点から考えることで、他者への言動に配慮することの重要性をより深く理解することができる。また、相手への接し方を見直すことで、自分の人間関係を豊かにすることに繋げることができる。この話し合い活動を通して、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとする態度を養うことができる。

以上の理由により本題材を指導する意義は大きい。

### (2) 生徒観（男子17名、女子16名 計33名）

本学級の生徒は、第3学年になり1学期間を過ごす中で、様々な学校行事に対して、3年生らしく一つ一つ丁寧に取り組むことができている。5月に行われた修学旅行では、事前学習や当日の活動を通して、級友と協力して物事に取り組む態度を養うことができた。さらに、事後の学級活動で、修学旅行後の学級の振り返りとなる「句会」を行い、互いのよさを認め合うことのよさについて理解することができた。しかし、休み時間において、友達が固定化してしまっていることや、学級内においても関わりが少ない友達と距離を感じていることなどの課題も挙がっている。また、お互いの距離が近くなり、気を許せる関係性が構築されてきたことによるトラブルも起きている。自分の思い通りにならないといらいらして周りの友達に当たったり、ちょっとした行き違いから悪口の言い合いのトラブルになったり等のもめごとも起きている。さらに、仲良しの友達には優しくしたり味方をしようとしたりするが、そうではない友達や異性には思いやりのある行動が取れない生徒も見られる。

このような実態から、生徒が互いの立場や考えを尊重し、譲り合ったり協力し合ったりするなど、他者への思いやりを深め、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとする態度の育成が必要であると考えられる。

## 3 指導と評価の計画（別紙参照）

#### 4 本時の展開

##### (1) ねらい

身近なトラブルの事例の原因や解決についての話し合いを通して、他者に配慮した言葉遣いや接し方について見直し、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとする態度を養う。

##### (2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p><b>&lt;つかむ&gt;</b>  <b>1 本時の課題をつかむ。</b>            ○学級活動の振り返りや生徒の実態調査の結果から、よりよい人間関係を形成するために、身近なトラブルの事例について話し合うことを把握する。</p>	<p>○「友達から仲間外れや無視、陰口をされたことがあるか」についてのアンケート結果を示すことで、多くの生徒にとって共通の課題であることを実感できるようにする。            ○ありそうな仲間同士のトラブルについて生徒に調査したものを事例として提示することで、より切実感をもって考えることができるようにする。</p>
<p><b>課題：友達関係のトラブル事例から解決方法を考えよう。</b></p>	
<p><b>&lt;さぐる&gt;</b>  <b>2 原因を追求する。</b>            ○事例のどこが問題なのかについて意見交換することで、仲間外れや陰口などが起きる原因を考える。            ・かっとなってしまいうから。            ・自分が嫌なことをされたから。            ・友達に注意すると人間関係が壊れてしまいそうで嫌だから。</p>	<p>○起こった事実を一つ一つ丁寧に確認し、議論を行うための共通の土壌を築けるようにする。            ○事例の状況だけでなく自分の生活から考えさせることで、原因を自分のこととして捉えるようにする。            ○「事例の状況は誰が一番悪いのか」と生徒に聞くことで、立場を明確にしながら話し合いを進めることができるようにする。            ○仲間外れや陰口などが起きる原因を明らかにすることで、解決に向けての方向性を明確にさせる。</p>
<p><b>&lt;見つける&gt;</b>  <b>3 解決方法等を話し合う。</b>            ○法律上の「いじめ」の定義を理解し、事例のケースではどうすればよかったかについて話し合い、他者に配慮した言葉遣いや接し方について考える。            ・自分が意図していなくても相手を傷つけてしまうことがあるから言動に気をつける。            ・相手の話をよく聞き、一方的な態度をとらないようにする。            ・人の感じ方は人それぞれ違うから、相手の気持ちをよく考える。</p>	<p>○いじめの定義をQ&amp;A形式で説明することで、生徒がわかりやすく理解できるようにする。            ○いじめに限らず対人関係では、行為を受けている側の立場を考えることが大切であると再認識させることで、よりよい言葉遣いや接し方について考えられるようにする。            ○悪意なく相手に苦痛を与えてしまう場合などいじめの定義だけでは納得しにくい状況についても取り上げてすることで、他者の心情をより具体的に考えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b>              他者に配慮した言葉遣いや接し方について見直し、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとしている。（ワークシート・観察）</p> </div>
<p><b>&lt;決める&gt;</b>  <b>4 個人目標を決定する。</b>            ○自分ができる実践について、場面や方法を明確にし、努力していこうという意欲をもつ。</p>	<p>○振り返りカードの使い方を共有し、学級活動後にも定期的に振り返りことを伝えることで、実践意欲が継続するようにする。            ○相手に配慮した言動を心がけることは、ハラスメントの観点からも重要であることを伝える。</p>
<p><b>&lt;生徒の姿&gt;</b>            ・合唱コンクールの練習に不真面目な友達に対して、責めたり陰口を言ったりしてしまっていた。しかし、他者とよりよい人間関係を築くためには、人によって感じ方が違うことを踏まえ、相手の気持ちをよく考えて、言葉遣いや接し方に気をつける必要があるとわかった。これからは、相手の事情に耳を傾ける姿勢を意識したり、悪口や不穏な空気が生じたら話題を変えたりして、他者に対する言動に気をつけて生活する。</p>	

#### <【思考力、判断力、表現力等】育成のための具体的な手だて>

(2) 振り返りカードや掲示物の工夫（実践の振り返り）

指導と評価の計画 学級活動(2) 3年

題材「他者の心情を基準によりよい人間関係について考えよう

～法律上のいじめの定義、トラブル事例をもとに～

目標	身近なトラブルの事例の原因や解決についての話し合いを通して、他者に配慮した言葉遣いや接し方について見直し、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとする態度を養う。			
評価規準	<p>【知識・技能】 他者への思いやりを深めることが、集団生活では必要であることを理解させ、その実現に向けた行動ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 人間関係の課題を見だし、解決のために話し合い、意思決定を行うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己で目標を決めてよりよい人間関係づくりに取り組み、主体的に問題を解決しようとしている。</p>			
過程	日時	学習活動	指導上の留意点	評価 (方法・観点)
事前の活動	10月4日(金) 朝の会	1. 問題の発見・確認 ○友達の関係や生活についてのアンケートを行う。	☆事前アンケートをもとに、グラフや事例などを作成し教室内に掲示しておくことで課題意識をもたせる。	【主体的に学習に取り組む態度】 自己で目標を決めてよりよい人間関係づくりに取り組み、主体的に問題を解決しようとしている。 (アンケート・観察)
	10月9日(水) 帰りの会	○グラフを見て気付いたことを簡単に交流する。	☆生徒がクラスの実態と本時の活動につながりがもてるようにする。	
本時の活動	10月11日(金) 5校時	<p>2. 課題解決方法等の話し合い ○事例のどこが問題なのかについて意見交換することで仲間外れや陰口などが起きる原因を考える。</p> <p>3. 解決方法の決定 ○法律上の「いじめ」の定義を理解し、事例のケースではどうすればよかったかについて話し合い、他者に配慮した言葉遣いや接し方について考える。</p>	<p>☆仲間外れや陰口などが起きる原因を明らかにすることで、解決に向けての方向性を明確にさせる。</p> <p>☆いじめに限らず対人関係では、行為を受けている側の立場を考えることが大切であると再認識させることでよりよい言葉遣いや接し方について考えられるようにする。</p>	【思考・判断・表現】 他者に配慮した言葉遣いや接し方について見直し、他者を尊重して望ましい人間関係を形成しようとしている。 (ワークシート・観察)
事後の活動	10月15日(火)	4. 決めたことの実践 ○粘り強く実践する。	☆定期的に、自己評価や他者評価で振り返りの場面を設けることで、実践目標の確認と意識の定着ができるようにする。	【知識・技能】 他者への思いやりを深めることが、集団生活では必要であることを理解させ、その実現に向けた行動ができる。 (振り返りカード・観察)
	10月18日(金) 帰りの会	5. 振り返り ○定期的に振り返る。	☆学級活動コーナーに実践したことを掲示することで、実践を通して得られた成果や課題を次の活動につなげられるようにする。	

5 資料(別紙参照)

※別形式「振り返りカード」を作成

# 振り返りカード

学級活動(2) 「友達関係のトラブル事例から解決方法を考えよう」

3年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

## □わたしが決めた目標

(いつ、どのような場面で) ..

(どのように) .....

## ○目標を振り返ろう

◎・・・内側、外側の星を塗る。      ○・・・内側だけ星を塗る。      △・・・色は塗らない。

★自分の立てた目標をどれくらい達成できましたか。色を塗りましょう。

10/15 火	10/18 金	10/25 金	11/1 金	11/22 金	12/6 金	12/20 金
						

実践目標を見直そう

(いつ、どのような場面で) ..

(どのように) .....

□実践を振り返って、できるようになったことや、これからも続けていきたいことを書こう。

\_\_\_\_\_

□検印

\_\_\_\_\_